

第86期 中間事業のご報告

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで

株主メモ

- | | | | |
|--------------------|---|-----------|---|
| ■ 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで | ■ 同取次所 | 住友信託銀行株式会社 全国各支店 |
| ■ 定時株主総会 | 毎年6月開催 | ■ 単元株式数 | 1,000株 |
| ■ 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 | ■ 公告方法 | 電子公告
当社のホームページ
(http://www.tatsuta.co.jp) に
掲載する。
ただし、事故その他やむを得ない
事由によって電子公告による
公告をすることができない場合
は、日本経済新聞に掲載して行う。 |
| | 期末配当金 毎年3月31日 | ■ 上場証券取引所 | 東京、大阪 |
| | 中間配当金 毎年9月30日 | | |
| | そのほか必要があるときは、
あらかじめ公告して定めた日 | | |
| ■ 株主名簿管理人 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 | | |
| ■ 同事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部 | | |
| (郵便物送付先) | 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部 | | |
| (電話照会先) | ☎0120-176-417 | | |
| (インターネットホームページURL) | http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html | | |

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成21年12月

代表取締役社長 藤江修也

【営業の概況】

当中間期（第1および第2四半期）における我が国経済は、リーマンショック以降世界的景気後退の局面の中にあつて、輸出の大幅な減少、雇用情勢の悪化、設備投資の低迷等極めて厳しい状況で推移いたしました。

この間における我が国の銅電線需要量は、電機、自動車、建設向け等ほとんどの部門における需要が低迷し、前年同期に比べ大きく減少いたしました。また、光ファイバケーブルの需要量も同様に前年同期に比べ大幅に減少しております。

当中間期において当社グループは、このような厳しい環境下にあつて引き続き効率的な生産・販売活動を推進し、事業運営全般にわたる競争力の強化に取り組むなど、鋭意業績の維持向上に努めてまいりました。

その結果、連結売上高は、全般にわたる需要低迷の影響を受け、前年同期比37.1%減の164億5千2百万円となりましたが、連結経常利益は前年同期比72.3%減の3億9千5百万円、連結中間純利益は前年同期比57.6%減の3億7千4百万円となりました。

電線・ケーブル事業

光ファイバケーブルは、国内設備投資の抑制によりFTTH化の進展が遅れ、売上高が減少いたしました。銅電線についても、原材料の銅価格は比較的堅調に推移したものの、販売量が大幅に減少したため、売上高は大きく減少いたしました。

その結果、電線・ケーブル事業の売上高は、前年同期比42.0%減の126億6千万円となりました。

電子材料・光部品他事業

タツタシステム・エレクトロニクス株式会社の機能性フィルム等をはじめとする電子材料については、電子業界の世界的な需要減少により全体として低調のうちに推移し、電子材料・光部品他事業の売上高は、前年同期比13.4%減の38億1千7百万円となりました。

国内景気は、最悪期を脱したとの見方もありますが、失業率の上昇、消費の低迷、設備投資の減退等、今後も依然として厳しい状況が継続すると予測されております。このような中、電線業界においては、銅電線および光ファイバの需要はともに低水準が見込まれ、さらに原材料価格が比較的高値のまま推移すると予想される等、厳しい状況が続くものと見込まれます。

当社グループとしては、このような厳しさを増す環境下にあつて、電線・ケーブル事業においては、一層の事業基盤の強化を図るべく、生産体制の効率化および物流機能の

整備に取り組んでおります。特に、大阪工場の物流機能については、お客様に対する品質およびサービスの向上と物流コストの低減を目指してその機能を分社化し、新たに「タツタ物流株式会社」として7月より業務を開始いたしました。販売面でも、産業用ロボット向高力ケーブルの品揃えの充実やその他新規製品の開発等を進めており、一定の成果をあげつつあります。

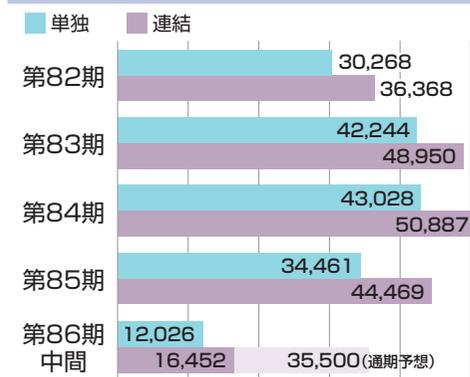
また、電子材料・光部品他事業において、タツタシステム・エレクトロニクス株式会社では、機能性フィルムの堅調な需要に対応して、昨年完成した京都工場の操業安定化を図って、既存の工場と合わせ一層の生産効率化を推進するとともに、新規商品の開発にも積極的に取り組んでおります。さらに、当社の光部品事業については、将来の拡大が見込まれるフォトエレクトロニクス分野の事業化に取り組んでおり、特長ある独自の技術深化に努め、新規製品の開発と品揃えの充実を図っております。

なお、当社は、グループにおける電子材料等の非電線分野の更なる事業展開とその一層の効率化を図る観点から、平成22年4月1日をもって当社の100%連結子会社である上記タツタシステム・エレクトロニクス株式会社を吸収合併することとしております。

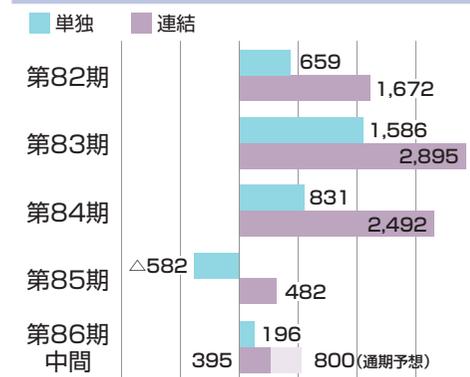
このような取り組みの中、当中間期における配当につきましては、1株当たり3円の配当を実施することとしたと存じます。

株主各位の一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

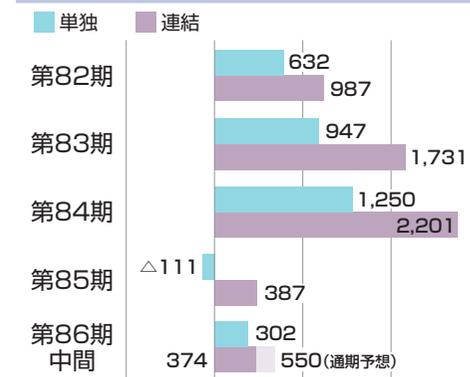
売上高 (単位: 百万円)



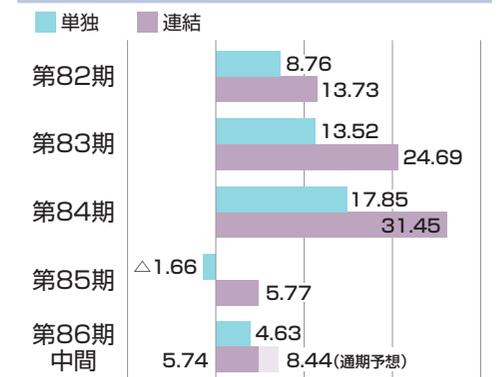
経常利益 (単位: 百万円)



中間(当期)純利益 (単位: 百万円)



1株当たり中間(当期)純利益 (単位: 円)



(注)各指標について、今年度より単独の通期予想を開示しておりません。

財務諸表

中間連結財務諸表

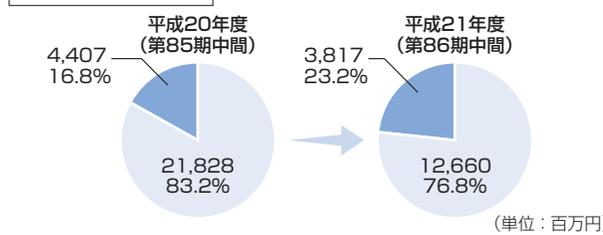
■中間連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当中間期末	前期末
	(平成21年9月30日現在)	(平成21年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	21,977	22,616
固定資産	9,718	10,193
有形固定資産	7,437	8,221
無形固定資産	166	229
投資その他の資産	2,113	1,743
資産合計	31,695	32,810
負債の部		
流動負債	3,784	4,726
固定負債	1,791	1,873
負債合計	5,575	6,600
純資産の部		
株主資本	25,964	25,851
資本金	6,676	6,676
資本剰余金	4,536	4,536
利益剰余金	16,020	15,906
自己株式	△ 1,269	△ 1,268
評価・換算差額等	156	358
その他有価証券評価差額金	156	358
純資産合計	26,120	26,209
負債・純資産合計	31,695	32,810

■中間連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)	(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)
売上高	16,452	26,175
売上原価	13,704	22,504
売上総利益	2,747	3,671
販売費及び一般管理費	2,393	2,306
営業利益	353	1,365
営業外収益	87	99
営業外費用	45	35
経常利益	395	1,429
特別利益	807	37
特別損失	558	13
税金等調整前中間純利益	644	1,453
法人税、住民税及び事業税	174	570
法人税等調整額	96	△ 0
中間純利益	374	883

■事業別売上高構成 (単位：百万円)



■中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)	(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,628	1,410
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,256	△ 606
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 428	△ 940
現金及び現金同等物の増減額	△ 56	△ 137
現金及び現金同等物の期首残高	510	836
現金及び現金同等物の中間期末残高	454	699

■中間連結株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成21年9月30日まで) (単位：百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成21年3月31日残高	6,676	4,536	15,906	△ 1,268	25,851	358	358	26,209
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 260		△ 260			△ 260
中間純利益			374		374			374
自己株式の取得				0	0			0
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額 (純額)						△ 202	△ 202	△ 202
中間連結会計期間中の変動額合計			113	0	113	△ 202	△ 202	△ 89
平成21年9月30日残高	6,676	4,536	16,020	△ 1,269	25,964	156	156	26,120

中間単体財務諸表

■中間単体貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当中間期末	前期末
	(平成21年9月30日現在)	(平成21年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	19,260	19,618
固定資産	7,958	8,243
有形固定資産	4,995	5,566
無形固定資産	113	171
投資その他の資産	2,849	2,505
資産合計	27,218	27,861
負債の部		
流動負債	4,019	4,285
固定負債	1,368	1,572
負債合計	5,387	5,858
純資産の部		
株主資本	21,683	21,643
資本金	6,676	6,676
資本剰余金	4,726	4,726
利益剰余金	11,550	11,509
自己株式	△ 1,269	△ 1,268
評価・換算差額等	147	359
その他有価証券評価差額金	147	359
純資産合計	21,831	22,002
負債・純資産合計	27,218	27,861

■中間単体損益計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)	(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)
売上高	12,026	20,275
売上原価	10,873	18,805
売上総利益	1,153	1,470
販売費及び一般管理費	1,303	1,250
営業利益	△ 150	220
営業外収益	414	450
営業外費用	68	47
経常利益	196	623
特別利益	655	32
特別損失	554	12
税引前中間純利益	297	642
法人税、住民税及び事業税	△ 125	49
法人税等調整額	120	26
中間純利益	302	566

会社情報

会社概要

(平成21年9月30日現在)

- 社名 タツタ電線株式会社
- 本店所在地 大阪府東大阪市岩田町2丁目3番1号
- 設立年月日 昭和20年9月28日
- 資本金 6,676,227,664円
- 従業員 連結 604名
単体 348名
- 事業内容 電線・ケーブル、電線・ケーブル付属品、電子材料（導電性ペースト、ボンディングワイヤ、防錆材）、機器システム製品（防災関連、病院・薬局合理化関連）、光関連製品（コネクタ端末加工、カプラ）の製造販売及び環境分析事業等その他のサービス事業



本社・大阪工場



京都工場

役員

(平成21年9月30日現在)

- 代表取締役社長 藤江 修也
- 専務取締役 江角 健一
- 専務取締役 木村 政信
- 常務取締役 平井 洋行
- 常務取締役 橋本 和博
- 取締役 北島 秀樹
- 取締役 松本 一郎
- 取締役 檀上 芳郎
- 取締役 三村 弘治
- 取締役 門脇 信好
- 常勤監査役 安藤 明彦
- 監査役 占部 知之
- 監査役 村山 誠一

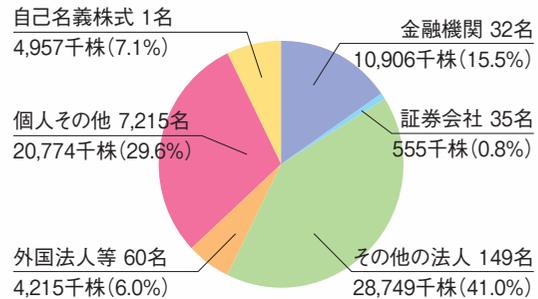
株式の状況

(平成21年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 156,693,000株
- 発行済株式の総数 70,156,394株
- 株主数 7,492名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
新日鉱ホールディングス株式会社	22,739	32.41
タツタ電線株式会社(自己株式)	4,957	7.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,405	4.85
住友金属鉱山株式会社	1,921	2.74
日本興亜損害保険株式会社	1,572	2.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,461	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,165	1.66
シービーエヌワイデイエフイーインターナショナルスモールキャップパリュウポートフォリオ	1,146	1.63
個人株主A	1,015	1.45
カセイスバンク オーディナリ アカウント	922	1.31

所有者別株式分布状況



ホームページ



アドレス <http://www.tatsuta.co.jp>

TOPICS トピックス

タツタ物流株式会社本格業務開始

当社大阪工場の物流機能を移管された「タツタ物流株式会社」はこの7月に本格業務を開始いたしました。同社では物流コストの削減を図るとともに、お客様に対する一層の品質とサービスの向上を目指しております。



総厚8ミクロン、ノンハロゲン難燃型 フレキシブル回路基板(FPC)用超薄型電磁波シールドフィルム 「SF-PC5900」



これまでの「SF-PC5000」の機能を損なうことなく、接着剤樹脂を高難燃化したハロゲンフリーのシールドフィルム。さらに業界初総厚8ミクロンという超薄型を達成。シールド特性、機械特性、物理特性、各種信頼性およびFPC加工条件はPC5000と変わらず、高撓動性、高屈曲性に加え、安全性や環境配慮が要求される用途に最適です。

タッチパネル用熱可塑型異方導電性ボンディングペースト 「CBP-700」

「CBP-700」は、ハロゲンフリータイプのタッチパネル用熱可塑型異方導電性ボンディングペーストです。優れた導電性粒子の粒度管理、分散技術により、タッチパネルとフレキシブルコネクタの安定した接続信頼性を実現します。

